

公益財団法人 がんの子どもを守る会

Children's Cancer Association of Japan

がんの子どもを守る会研究助成<2024年度募集要項>

(注) 従来「治療研究助成」として募集してきたが、患者家族会である「がんの子どもを守る会」の研究助成である趣旨をより明確にするために、2024年度より「がんの子どもを守る会研究助成」と名称を変更した。

1. 目的

公益財団法人がんの子どもを守る会研究助成金は、子どもたちを小児がんのさまざまな脅威から守るため、その予防、早期の適切な診断、治療成績の一層の向上と後遺症のない治癒、トータルサポートによるよりよい療養生活などの実現に寄与する調査研究の促進を目的とするもので、原資は全て寄付金に依る。

2. 資格及び対象

- 国内における国・公・私立の大学その他の医療機関及び研究機関に属する医療従事者や教育・研究機関に属する教育・研究関係者の個人若しくはグループによる国内に成果を還元する調査・研究等を対象とし、助成金の目的に沿うものとする。
- 本会治療研究委員（治療研究委員会設置規程第3条第1項に基づく）は、自ら研究代表者として応募できないこととする。

3. 募集課題

小児がんに関する研究のうち以下【1】～【3】のうちいずれかを選択

『小児がんに関する研究』

- 小児がん経験者に関する研究
- 小児がんに関するトータルケアの研究
- 小児がんに関する基礎系・臨床系の研究

基礎系・臨床系の研究はもとより、患者家族会であるがんの子どもを守る会の助成制度であり小児がん経験者及び小児がんに関するトータルケアについても、積極的に応募することを期待するものである。

4. 助成件数と金額

20件～25件程度

(1件につき10万円～100万円程度：助成総額900万円*助成額は審査委員会にて決定)

5. 助成期間

2024年10月1日～2025年9月30日 *原則として期限を超過しての用途は認めない(残額は返金とする)。

6. 応募方法

所定の様式(当会ホームページよりダウンロード)により応募書類を作成し、PDFファイル形式でメールに添付し送付すると共に、押印のうえ原本1部を当会へ送付すること。

7. 募集期間及び締切り

募集期間：2024年4月1日～2024年6月30日

<応募の締め切り>

② PDFファイル形式でメールに添付し送付：2024年6月30日必着

②原本の郵送：2024年6月30日消印有効

8. 提出先

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12 公益財団法人がんの子どもを守る会
がんの子どもを守る会研究助成担当宛て

電話：03-5825-6311 メール：jimu@ccaj-found.or.jp

応募確認のため必ず申請書をメールに添付し送付すること。また、申請書原本は書留郵便など記録の残るもの以外
は未達の責任を負いかねます。

9. 選考方法

本会治療研究委員会の審議を経て理事会の承認のうえ決定する。

10. 選考結果の通知

2024年9月末までに、応募したすべての研究代表者に結果を通知する。

11. 報告及び研究成果の発表

- ・ 助成金の交付を受けた研究者は、単年ごとに定められた期日までに、所定の様式により研究報告書を提出する。報告書の公表権利などは公益財団法人がんの子どもを守る会に帰属する。
- ・ 助成金の交付を受けた研究者は、研究終了後、翌年度のがんの子どもを守る会公開シンポジウムにて研究成果を一般公開する。報告のスタイルや書式については採択後に通知する。
- ・ 助成金の交付を受けた研究者が、研究の結果又は経過の全部若しくは一部を刊行し、又は書籍、雑誌等に掲載する場合は、本会より助成金を受けた研究である旨を明記する。

12. 経理報告

交付を受けた研究者は、助成期間終了後 1 ヶ月以内に所定の様式により決算を含む報告書を提出する。

13. 倫理審査について

助成が決定した場合は、必ず何らかの倫理審査機関の承認を得ることを原則とし証明の写しを求める。倫理審査の状況は申請書にチェックを入れること。なお、動物実験の場合は、申請書の確認欄にチェックを入れること。

14. その他

- 助成金は、申請者（研究代表者）の責任で管理すること。
- 助成金は、申請者（研究代表者）の属する施設の都合であっても、助成金名目以外の受け取り方法は認めない（例：寄付金名目での受け取りは認めない）。
- 助成金管理に要する間接経費は認めない。
- 同一の申請者（研究代表者）からの複数申請は不可とする。
- 一般公開用（当会公開シンポジウム）に提出した報告書については、当該助成金の支援者（寄付者）への報告及び、寄付の依頼のために広く活用することがある。

15. 2022 年度/2023 年度の助成決定研究一覧（敬称略：順不同）

2022 年度

氏 名	研 究 名 称
浅野 陽平	悪性骨腫瘍に対する液体窒素を用いた腫瘍処理骨再建における処理骨周囲膜組織の機能解明と新たな再建法の開発
石田 穰治	小児脳腫瘍診断困難例に対するマルチオミクス解析を駆使した precision medicine の確立
石原 泰子	化学療法を受ける小児悪性腫瘍患者における口腔粘膜炎に関する実態評価；0.2%レバミピド含嗽液の使用に着目した記述疫学研究
井上 健	小児腫瘍のグループスタディに有用な病理組織分類アトラス・資料の適時リニューアルおよび小児腫瘍病理診断の教育研修活動
梅田 雄嗣	ダウン症候群における胚細胞腫瘍発症メカニズムの解明

大木 健太郎	小児造血器腫瘍における FISH 法による融合遺伝子診断法の開発
大杉 タ子	思春期若年成人世代の血液腫瘍患者への情報提供の在り方と支援に関する研究
大町 太一	小児白血病における新規融合遺伝子の同および定量評価系の確立
兼田 加珠子	核医学治療薬による低侵襲がん治療の検討
笹川 覚	フェロトーシス経路を標的とした滑膜肉腫の新規分子標的治療法の探索
鈴木 孝二	小児急性リンパ性白血病維持療法中の食事制限と感染症に関する他施設共同観察研究
門廻 充侍	学童期経験者を対象とした PPI を見据えた人材育成に関する基礎検討
玉井 望雅	急性リンパ球性白血病におけるグルココルチコイド抵抗性関連遺伝子の in vivo CRISPRscreening と single cell RNA-seq による遺伝子多重摂動解析
田村 彰広	抗 SIRP α 抗体による貧食機構を応用した神経芽腫の新規治療開発
中田 聡	SLFN11 で層別化した髄芽腫の新規治療戦略
日高 もえ	小児患者の妊孕性温存を志向した卵巣組織凍結保存の実行可能性の検証と最適化
廣瀬 勝俊	難治性脈管異常に対するシロリムス薬事承認を見据えた治療エビデンスの確立
樋渡 光輝	難治性神経芽腫に見出された新規 ALK 融合遺伝子の発がんメカニズム解析
深野 玲司	ALK 陽性未分化大細胞リンパ腫の腫瘍細胞播種に関わるメカニズムの解明
細谷 要介	一般総合病院の機能を活かした小児がん経験者の人間ドックシステムによる晚期合併症と QOL の生涯コホート調査と自立的な健康管理能力の育成～他機関との連携

松川 幸弘	先天性代謝性異常症に合併する血球貧食性リンパ組織球症（HLH）の後方視的調査研究
吉田 秀樹	小児急性骨髄性白血病（AML）及び骨髄増殖性疾患（MPN）における ALK/ROS1 融合遺伝子の臨床的意義の検討
若松 学	単一細胞解析による若年性骨髄単球性白血病の不均一性と新規治療薬への応用

2023 年度

氏 名	研 究 名 称
井口 雅史	抗腫瘍抗体発現間葉系幹細胞によるドラッグデリバリーシステムの開発と展開
池田 順治	KMT2A::MLLT3 陽性かつ MECOM 高発現を有する難治性急性骨髄性白血病に対する L-アスパラギナーゼを用いた新規治療戦略の構築
石本 健太	神経芽腫に対する、高活性 NK 様細胞製剤 GAIA 102 と免疫チェックポイント阻害薬の併用効果の検討
井上 健	小児腫瘍のグループスタディに有用な病理組織分類アトラス・資料の適時リニューアルおよび小児腫瘍病理診断の教育研修活動
梅田 雄嗣	ダウン症候群における胚細胞腫瘍発症メカニズムの解明
大植 孝治	小児腎腫瘍に対する新規治療法開発のための国際臨床試験 UMBRELLA-J
勝海 大輔	神経芽腫による抗腫瘍免疫抑制機序の解明と新規免疫療法の開発
河北 一誠	肝芽腫発生に関わるエピゲノム異常の誘導メカニズムの解明
木下 英幸	PDX モデルを用いた横紋筋肉腫の腫瘍進展におけるレドックス制御の解明
工藤 涉	エピゲノム異常に着目した肝芽腫の新規治療標的の探索
工藤 節美	小児がんの子どもと家族の在宅療養を支えるための往診医と訪問看護師の連携

小林 京子	思春期小児がん患者のための妊孕性温存に関するディシジョン・エイドの作成
小堀 宅郎	小児脳腫瘍に対する革新的”自然免疫”チェックポイント阻害療法の開発
坂口 大俊	血液腫瘍の小児患者に対する同種造血幹細胞移植における移植後シクロホスファミドを用いた移植片対宿主病予防法の検討
島崎 紀子	神経芽腫に対する機能性ライガンド分泌 T 細胞の安全性評価および安全性の向上
進藤 彰人	小児がんサバイバーの晩期心血管合併症と運動耐容能に関する研究
高島 光平	小児がん患者のサルコペニア予防に向けた栄養療法の確立
藤間 勝子	小児・思春期がん患者の治療に伴う外見変化に対して、医療者が提供するアピランスケアに関する調査
富田 祐介	びまん性正中神経膠腫マウスモデルにおける MEK 阻害薬と腫瘍溶解ウイルスの併用療法
西村 雄宏	神経芽腫に対する抗 GD2 抗体及び iPS 細胞由来 NKT 細胞を用いた免疫療法開発
橋井 佳子	腸内細菌を利用した小児用経口がんワクチンの開発
長谷井 嬢	肉腫治療による長期入院患者のメンタルケアを目指したメタバース活用
原(野上) 愛	L-アスパラギナーゼアレルギーならびに薬剤耐性に関わるサイトカインプロファイルの解析
菱ヶ江 恵子	小児がんの子どもおよび小児がん経験者の気持ちと親子関係に関する研究
樋渡 光輝	小児血液および固形がんにおける新規分子標的療法の確立
船戸 道徳	Li-Fraumeni 症候群診療ガイドラインの評価及び改訂に関する研究

細谷 要介	一般総合病院の機能を活かした小児がん経験者の人間ドックシステムによる晩期合併症と QOL の生涯コホート調査と自立的な健康管理能力の育成～他機関との連携
牧瀬 尚大	ナノポアシーケンサーを用いた小児肉腫に対する統合病理診断
森 健	標準的化学療法を行った進行期小児リンパ芽球性リンパ腫の予後因子探索を主目的とした多施設共同研究 JPLSG-ALB-NHL-14
山崎 夏維	中枢神経腫瘍に対する DNA メチル化解析による分子分類の臨床的有用性を評価する多施設共同前方視的観察研究
吉野 浩	白血病幹細胞の酸化的リン酸化をターゲットとした急性リンパ性白血病治療の開発
カ石 健	フォローアップを終了した小児がん経験者の QOL 調査研究
鷺尾 佳奈	小児・AYA 世代悪性腫瘍患者および同種造血細胞移植患者におけるサルコペニア・栄養状態が有害事象発生および予後に与える影響についての研究

※継続研究についても年度毎に申請が必要となります。

■お問い合わせ

公益財団法人がんの子どもを守る会 がんの子どもを守る会研究助成担当

電話：03-5825-6311

E-mail：jimu@ccaj-found.or.jp

以上